


○山梨県国民健康保険団体連合会新聞掲載記事（令和5年度）

日付	新聞記事
<p>令和6年3月7日 (山梨日日新聞)</p>	<p>来年度当初予算や事業計画など承認 県国民健康保険団体連合会 県国民健康保険団体連合会は、ベルクラシック甲府で第101回通常総会を開き、2024年度の当初予算や事業計画などを承認した。 当初予算は一般会計（1億8740万9千円）や後期診療報酬支払勘定（1209億1531万8千円）など計17会計。合計額は2937億501万5千円で、前年度を99億9118万6千円（3.5%）上回った。後期高齢者の増加に伴う医療費や介護給付費の増額などが理由という。事業計画では新規事業として、各市町村の負担額のうち結核や精神医療に関わる費用が14%を超えた場合、市町村が国に特別調整交付金を申請する作業の支援に取り組む。 このほか、DX（デジタル）の推進などを盛り込んだ第7期中期経営計画（24～28年度）の説明もあった。総会は2月28日開いた。（小林諒一）</p>
<p>令和5年12月15日 (山梨日日新聞)</p>	<p>病気予防や健康支援制度を説明 甲府で活動推進委員会 県国民健康保険団体連合会は7日、甲府・県自治会館で国保健康づくり活動推進委員会を開いた。 県福祉保健部や各保健所、自治体の担当者約20人が出席。県国保保護課の担当者が、病気予防や健康づくりに積極的な自治体に交付金を増額する「保険者努力支援制度」の実施状況を説明した。特定健診の受診率向上に向けた支援など、来年度の事業計画案が承認された。 委員会は医療情報の活用方法などを検討するため、定期的に開かれている。（小林諒一）</p>
<p>令和5年12月3日 (山梨日日新聞)</p>	<p>データヘルスの計画策定へ研修 県国民健康保険団体連合会 県国民健康保険団体連合会は、甲府・県自治会館で、「データヘルス計画」の策定に向け、効果的で実現可能な内容にするためのポイントを学ぶ研修会を開いた。写真。 11月21日に開かれ、市町村や保健福祉事務所の担当者が参加した。講師を務めた県立大の村松照美特任教授は、住民が抱えるさまざまな健康課題に対し、行政が政策として取り組むべきものを考える際の視点などを説明。計画について「健康課題に対し、施策の目的や目標に一貫性があることが大事」と話した。 県が作成した計画書のひな形を活用した策定方法についての講義や、参加者による情報交換もあった。研修会は同22日にも実施した。 計画は保険者が医療情報や健診データなどを分析し、加入者の健康増進を図る。2024～29年度を対象期間とし、国保の保険者である各市町村が本年度中に策定する。（杉原みずき）</p> 
<p>令和5年8月30日 (山梨日日新聞)</p>	<p>自治体職員14人がデータヘルス学ぶ 甲府で研修会 県国民健康保険団体連合会は29日、甲府・県自治会館で、保険者がレセプト（診療報酬明細書）や健診データの内容を分析し、加入者の健康づくりに生かす「データヘルス」を学ぶ研修会を開いた。写真。 保健所の圏域ごとに計4回実施し、29日の午前部には自治体職員14人が参加した。講師を務めた山梨県立大大学院看護学研究科の村松照美特任教授は、数値化できる統計資料に加え、住民への聞き取り調査を組み合わせて健康状態などを分析することを求めた。 村松特任教授は「聞き取った会話を丁寧に記録することで、住民の健康意識や生活状況などを把握することができると説明。「地域の特徴に沿った健康課題を考え、データヘルス計画の策定に生かしてほしい」と呼びかけた。 研修会は30日にも開催する。（小林諒一）</p>
<p>令和5年7月29日 (山梨日日新聞 電子版)</p>	<p>国保団体連合会が第100回通常総会 県国民健康保険団体連合会は28日、ベルクラシック甲府で第100回通常総会を開き、2022年度の決算を認定した。 県や市町村の関係者ら約30人が出席。診療報酬や介護給付費の審査支払い状況など22年度の事業内容の報告があり、決算を認定した。 総会終了後には、国民健康保険中央会（東京）の原勝則理事長が「これからの医療・介護制度と自助・互助の取組」と題して講演。1人暮らしや認知症の高齢者が増加傾向にあると説明した上で、「自助の考え方に加え、地域で支え合う仕組みづくりが大切だ」と呼びかけた。</p> <p>県国保連は、1941年に県国民健康保険組合連合会として設立。48年に現在の団体名に改称した。現在は年2回総会を開いている。（小林諒一）</p>   <p>2022年度の事業内容を確認する出席者＝ベルクラシック甲府</p>

日付	新聞記事
<p>令和5年7月24日 (山梨日日新聞)</p> 	<p>高齢者の糖尿病 テーマに研修会 県国民健康保険団体連合会</p> <p>県国民健康保険団体連合会は、甲府市南市民センターで、高齢者の糖尿病をテーマにした研修会を開いた。</p> <p>13日に開催。生活習慣病の重症化予防推進が目的で、自治体の保健師や管理栄養士ら約80人が参加。原口内科・腎クリニック（甲斐市）の原口和貴院長が講演した。</p> <p>原口院長は、高齢の糖尿病患者は糖尿病でない人と比べて低栄養になる場合が多いことを説明。低栄養は在院日数の延長や死亡率の上昇などにつながるとして「糖尿病患者への適切な栄養指導が大切だ」などと呼びかけた。</p> <p>甲府、中央、山梨の3市の担当者による高齢者健康指導の事例発表もあった。</p> <p>〈小林諒一〉</p>
<p>令和5年4月1日 (山梨日日新聞)</p>	<p>法務省 (地方法務局、矯正施設等)</p> <p>▽甲府地方法務局長(静岡地方法務局次長) 佐々木賢▽甲府地検事務局長(高松高検事務局総務課長) 高橋純子▽甲府刑務所長(高松矯正管区首席官) 荻沢淳</p> <p>県国民健康保険団体連合会</p> <p>(1日)</p> <p>▽事務局長(電算管理課長) 嶋田敬▽事務局付参事(審査課長) 望月文仁▽保健事業課長(総務課総括課長補佐) 有泉亨▽介護・保険者支援課長(保健事業課長) 網野秀貴▽審査課長(介護・保険者支援課長) 八巻淳司▽審査課主幹(審査課総括課長補佐) 長田宏▽総務課長補佐(総務課庶務係長) 宮崎圭一郎▽介護・保険者支援課長補佐(療養費係長事務取扱) (介護・保険者支援課療養費係長) 吉田幸長▽総務課庶務係長(審査課審査管理係主査) 長沼正樹▽審査課付係長(審査課審査第一係長) 手塚誠▽審査課審査第一係長(総務課企画財務係主査) 仲沢裕一</p>